



学校だより

1月号 第433号

教育目標：自分がすき 友だちがすき まちがすき 進んで学ぶ 山田の子

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamata/>

小学校でのプログラミング教育

校長 金森孝子

あけましておめでとうございます。令和5年、元旦の朝、横浜では素晴らしい初日の出を見ることができました。今年は卯年、飛躍の年です。世界がどのように進むか予想することも難しい2023年ですが、子どもたちは「脱兎の如く」進むテクノロジーとともに育ち、その利便性、可能性を享受しながらも、危険性にも向き合わなければならない今を生きています。そのような社会を担う子どもたちが、試行錯誤しながら学び続け、一人ひとりの個性に応じて活躍できるよう、土台としての学校づくりを進めて参ります。



小学校では、学習指導要領の改訂により、2020年からプログラミング教育を行っています。スタート当初、プログラミング教育の是非について議論されたことも記憶に新しいのではないかと思います。背景としては、AIの登場により、10年20年後には今ある半数近くの仕事が自動化される可能性があることが挙げられています。そのような未来社会を目前に、子どもたちは何を学ぶべきなのか、ということでプログラミング教育の必要性が高まったわけです。具体的には、まず子どもたちが、身の回りにある家電、自動車など多くのものにコンピュータが内蔵されていることに気付くことが大事だと言われています。例えば、自動販売機は、ある子どもにとっては、飲み物を出してくれる「魔法の箱」であり、どのような仕組みで働いているのか分からない「ブラックボックス」とも言えます。プログラミング教育は、生活を便利にしているコンピュータの仕組みの一端を知ることにより、「魔法の箱」がブラックボックスではなくなり、効果的具体的にコンピュータを活用することにつながると考えられた訳です。

プログラミング教育は、新しい教科ができたわけではなく、従前の教科、領域のカリキュラムに位置付けて実施しています。教科書にも一部取り扱いがあり、例えば、5年算数「正多角形の作図」では、教科書とプログラミングができる教材ソフトを活用しています。山田小学校では、先月、「総合的な学習の時間」で、5・6年がドローンを用いてプログラミングを学習しました。ドローン进行操作するプログラミングを作り、グループで目的地にドローンを着地させるというものです。子どもたちの夢中で取り組む姿に、その教育効果を実感しました。将来どのような職業についたとしても、コンピュータを上手に活用することは極めて重要です。子どもたちの可能性を広げるため、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

#####

出前授業としてFPVRobotics（外部企業）の方々にご協力いただき、5・6年生を対象としたプログラミング授業を実施しました。12月6日（火）には、事前学習としてオンライン授業を行い、ドローンの仕組み及び、将来の活用における可能性等について学びました。12月14日（水）には、実際にドローンを使った授業を行いました。グループで相談しながら、目的地までの飛行をプログラミングしていました。真剣な表情で試行を繰り返し、意図した通りに飛行した時には歓声が上がっていました。ドローンの種類や操縦の仕方、プログラミングのこと等、生き生きとした表情で積極的に質問をする子どもたちの姿がとても印象的でした。（副校長 間杉 誠）

